

## Global.plusWan\_Group plusWanいぬのしつけ教室

いぬのしつけ教室へのご参加、ありがとうございます。

今後、しつけ教室でのレッスンを効率よく進めていく上で必要な情報ですので、必ず読み進めておいてください。

テキスト「いかにしていぬのリーダーになるか」は、これからいぬとともに快適で幸せに暮らしていくための、「いぬとはどんな動物か」「いぬの性格や学習」「トレーニングに向き合う飼い主さんの姿勢」といった内容で構成されています。また、ページの最後には「宿題です」という項目があり、この宿題項目をやってみてください。

レッスンを上手に進めていくために

- テキストに書いてありますが、「飼い主のトレーニング」の項目は必ず実施する
- 最初からうまくいくことはありません。わからないことがあればwebsiteから質問することができます。
- レッスンスタンスは、基本的に2週間に1回のレッスンでいぬの学習と行動の定着を図ります。
- しつけ教室は万能ではありません、困った行動などがありましたら必ず都度のレッスンを始める前にお申し出ください。行動改善のアドバイスやレッスンの中で改善するポイントをアドバイスすることができる場合があります。

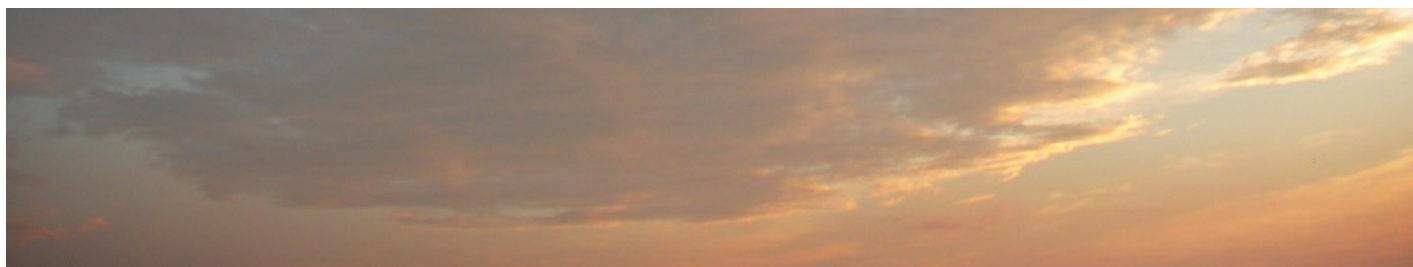
**p** lusWanいぬのしつけ教室は、短期間でいぬの学習や行動を定着させたり、行動改善を目指してはいません。「じっくりと飼い主さん、愛犬のペース」に合わせて、レッスンを進めていきます。いぬのしつけやトレーニングは最低でも3年間は続ける必要があると考えています。3年間しつけ教室に通うというのではなく、しつけ教室で学んだことを、ご自宅でじっくりと取り組んでいく必要があるという意味です。そのため、plusWanいぬのしつけ教室では、特に「卒業」を考えたトレーニングのプランづくりではなく、継続していただけるプランづくりを心がけています。

よろしくお願いいたします。

website ; <https://pluswandogschool.com>



犬のしつけ読本 いかにしていぬのリーダーになるか



こにし先生が贈るいぬのしつけ読本

# いかにしていぬの リーダーになるか



Copyright c いぬのしつけ教室こにし塾 All rights reserved

## 犬を飼うこと、すなわち共に暮らすこと。

### ただし容易なことではない！

犬を飼うということは、共に生活をする事です。でも、容易なことではないことも覚えておきましょう。犬と暮らす上でとても重要なことは、家族同様であっても犬はヒト科動物ではなく、イヌ科動物のイヌ属イヌであると認識しておくことです。犬の生態や習性をよく理解し暮らすことがとても大切なことなのです。犬は飼い主と出かけることの多い動物です。散歩やドライブや旅行などや、飼い主とともに会社に出社している犬もいます。

どんな犬でも最初はとてもやんちゃです。しつけやトレーニングをすることで社会性を身につけ、すてきなパートナーになります。飼い主が犬のリーダーになれるよう、犬のことをたくさん勉強していきましょう。

### ☆犬のしつけ方教室で学ぶこと

△楽しく犬をコントロールするプロセスを学ぶ

△社会生活のマナーとルールを学ぶ

△「陽性強化による誘導法」という技術を学ぶ。

陽性強化法は犬が起こす行動を誘導してよい行動に導いてほめていくことでその行動は強化されていきます。この方法は飼い主や犬にストレスをかけないで楽しくレッスンを進めていくことができます。



## しつけとは

「訓練」とちがって「しつけ」というのは、犬が飼い主の家族および人間社会で平和に暮らしていくための必要なマナーや身の処し方を習得するプロセスをいいます。したがって「しつけ」は一つにはもっとも親しい家族に対し、また見知らぬ人や他の犬に 対しどうふるまえばよいか学ぶことであり、もう一つはオイデやオスワリなどといった飼い主が犬の行動をコントロールするために施す学習そのものを言います。

社会的反応性に関するしつけは、犬の性格と密接に関連しています。いったん他人や他の犬を怖がる様になってからそれを直すのは大変難しい。ですから感受性の豊かな仔犬のときにできるだけ見知らぬ人や他の犬と接触できる機会をより多く与えるようにしてください。

犬の性格や行動は遺伝的素質が無関係ではありませんが、仔犬の時期に受けるこうした社会的経験によって、将来臆病で内向的に社会性に富む明るい性格の犬になるかがほとんど決まってしまうます。

「オイデ」や「オスワリ」といった簡単なしつけは、生後3~4ヶ月から始めていきます。また、こうした「しつけ」は他人に頼んでやってもらうのではなく、必ず飼い主が自分自身で行うことです。

「しつけ」にはしつける側と犬との間に好ましい優位劣位の順位関係が出来、さらにしつける人に対する犬の服従性を育むといった大切な機能があるからです。

飼い主は犬の「保護者でありよきリーダーである」ようにふるまうことも大切です。かわいいからといってただ甘やかすだけでは、犬は飼い主を尊敬できるリーダーとは思わないで、わがままにふるまうことを身につけてしまうだけです。

やさしく根気よく、時には威厳をもってまた一貫した態度で接することがポイントです。



## ☆マナーとルール

飼い主の姿勢ひとつで、犬のしつけの良し悪しが決まります。散歩のさせ方、エサの時間そして与え方など日頃の飼い方を家族みんなで話し合って決めましょう。

### △飼い主が守るべき基本的なマナー

- ・犬の健康管理をしっかりとすること
- ・手入れをして犬を清潔に保つ
- ・狂犬病やワクチン接種などを定期的に受ける
- ・定期的な検便をする
- ・散歩の時の糞便は必ず持ち帰る
- ・お散歩は必ずリードをつける
- ・犬を危険から守る
- ・最後まで責任を持って世話をする
- ・望まない繁殖はさせない
- ・迷子札など名前がわかるものをつける
- ・しつけは犬の義務教育
- ・法律や条例を遵守する



### △生活の中でのルール(決まりごと)

- ・犬に触るときは、名前を呼んでから
- ・犬の食餌は飼い主の食事のあと
- ・犬の食器をいつまでも置きっ放しにしない
- ・けじめある生活を心がける



## 犬の習性と学習能力

### ☆犬の習性

犬は元来、群れで生活をする動物です。犬はすべて外見や大きさに関係なく群れを作って狩りをする習性をもっています。群れには必ず統率力のあるリーダーが存在し、犬は群れの一員であれば、リーダーに従うという習性をもっています。

群れのリーダーは、知的で実力があり態度に一貫性があります。

この習性を家庭で飼っている犬に置き換えると、群れは家族ということになり、家族のみんなは犬のリーダーということになります。

リーダーである家族のみんなは、この習性をきっちり理解し、犬に生活でのルールや服従することの楽しさ、大切さ、そして安全性を教えていき、きっちりと犬との信頼関係を築いていかなければなりません。

ここでリーダーが一方通行の押し付けのしつけをして、リーダーになる構成がうまく築けずに、犬が「このリーダーには従えない」と思ったら挑戦してくる。すなわち問題行動を起こすようになるわけです。

### ☆犬の性格形成

犬の学習能力や性格については、親から受け継いだ遺伝と生活環境の二つの要素から作り上げられています。

犬の発育にも、遺伝的な性質(本能、衝動的行動)と生活環境(経験、訓練、人との絆)の2つが互いに影響しあっています。

仔犬の時の環境(学習も含めて)が犬の将来、特に人間関係において決定的な意味を持つということ忘れてはならない。

犬という動物自体、周囲からものを学び、蓄積した経験を基にして学習し続けていきます。このことから、パピーの時期のトレーニングは大変重要です。

## ☆学習理論

犬をしつけたりトレーニングするには、犬の学習理論を理解して実行していくことが効果的です。

犬はごく単純に物事を理解し学習しています。基本的には、陽性(プラスの思考)と陰性(マイナスの思考)の部分があり、陽性は最初に石橋を叩いて渡っていたのが、次第に普通に渡るようになっていく感じで、陰性はだんだん渡らなくなる感じです。陰性が強烈だと、その場から逃げるという行動をします。

## <<学習理論を利用したトレーニング>>

犬の学習は、オペラント条件付けを行うことで無理なく進めていくことができます。

### △オペラント条件付け

一つの行動に対して褒美を与える、もしくは褒美を取り上げるなどの行為をすることで、その行動を強化したり消滅させたりする方法。

### △陽性学習

犬にうれしいこと楽しいことを教えていって、行動を強化していくこと

### △陰性学習

犬に嫌なこと怖いことを教えていって、行動を強化していくこと

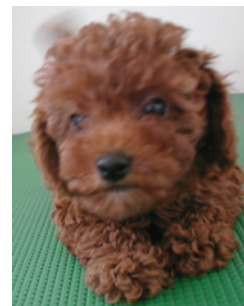
### △観察学習

生活の中で自然に覚えていく行動

## ☆パピー期の学習

### △早期学習(母犬や兄弟犬による刷り込み)

◇犬の学習は出生前期から始まっている...胎教は犬でも人でも必要で、この時に母犬に過度のストレスを与えると仔犬に精神的なダメージを与えることになる。



### △新生児期(0-2週)...

この時期は生まれて目が開くまでの時で、ほとんどを授乳と睡眠で過ごします。また特に教えたわけでもないのにしっかりと母乳を探し当てますし、授乳の際には後ろ足を地面に踏ん張り乳首を離すまいとしているし、前足は巧みに乳首を押したり引いたりしています。これはどのようにしたらエサにありつけてよりたくさん飲む事ができるかということを知っているということになります。

### △移行期(2-4週)...

犬の目が開いてきたり、歯が生えてきたりする時期です。この時より物を見て臭いを嗅いで確認するという動作をするようになります。

今まで腹這いでしか動かなかった仔が4本の足で立ちあがることができるようになる。この時に視覚、聴覚、触覚などやバランスの感覚が発達する。

### △社会化期(4-8週)...

刷り込みの時期とも云われ、この時に兄弟同志の上下関係や服従性が養われる。またこの時期に人に会う回数、または触れる回数が多いか少ないかということは大きな問題になる。なぜなら五感が一番発達する時期であるからです。

ここまでは母犬の元にいる時の学習能力を示しました。ただ、野生ではない家庭犬はこの後の学習を新しい環境ですることになりますが、野生の世界ではこの先もまだ母犬のそばで、生きていくすべてのことを学習していくことになります。

## 新しい環境に置かれた仔犬の学習はどのように行われるのか？

### △家庭犬としての社会性を身につける時期

新しい環境に置かれた仔犬はその環境に慣れるために探索を始めます。この時期は普通なら兄弟犬と争いながらエサを食べ喧嘩をしながら順序というものを身につけていく時ですが、その喧嘩の相手がいないのであればその相手を探そうとしていきます。その相手は当然飼い主ということになります。

### △飼い主は信頼できるリーダーか仔犬に試されている

この時期は群れの規律をしっかりと教えなくてはいけない時期です。親犬は仔犬とじゃれあいながら規律を教え仔犬はそこから規律を学習していきます。この時に飼い主は家庭犬として生きていくためのルールを教えていくことが大切である。

### △人との社会性を覚える時期が過ぎると階級を作っていくようになります。

しっかりしたリーダーを獲得したのであればその中で序列を作っていくようになります。しかしリーダーを獲得することができなければそれによって犬がリーダーになろうとしていきます。この時期から問題となる行動が発生し始めます。

このようにして犬は観察と経験を通して学習し家庭という群れの中で生活をしていきます。



## ☆仔犬とコミュニケーションをとる

犬とのコミュニケーションがうまくとれていないと、犬がリーダーになろうとしていきます。またしつけやトレーニングをする上でもコミュニケーションは大切です。

コミュニケーションの第一歩は、犬の注目を集めるということです。

### <ルール>

- △飽きるまで遊ばない
- △おもちゃを与えっぱなしにしない
- △遊びを終わる時は飼い主主導で
- △おもちゃは取り上げる



### <遊びコミュニケーション>

- △かくれんぼ

室内で犬の注意が逸れている時に、カーテンの後ろ、ソファの後ろなどに隠れてみましょう。仔犬は飼い主がいなことに気がつく真剣に探すことをします。

飼い主を探すという行為は犬に自信をつけさせたり、飼い主との絆を強めたりする効果があります。



- △よいおもちゃと悪いおもちゃ

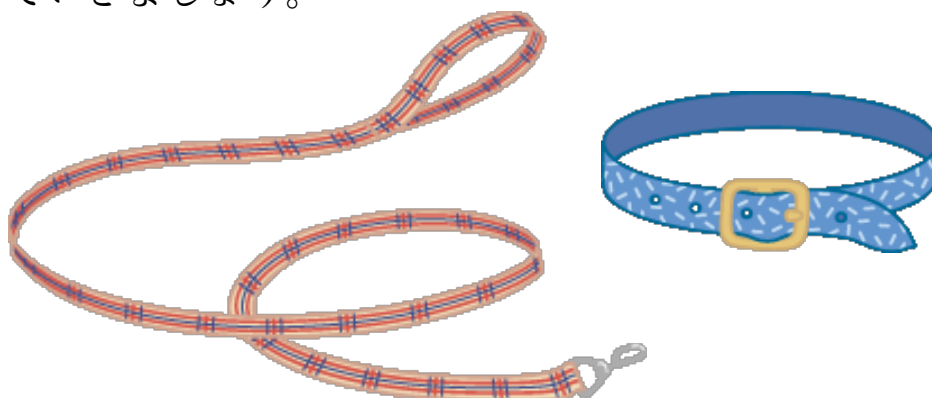
この時期はとにかく飼い主の大事なものを噛んだり壊したりするものです。遊んで良いおもちゃと悪いおもちゃを用意し、床に散らかします。犬が遊んで良いおもちゃに興味を示したら大いにほめてそれで遊んであげます。悪いおもちゃに興味を示したら、それは取り上げるだけにして相手にしないようにして、良いおもちゃで遊ぶように仕向けます。

なかなかうまくいかず、悪いおもちゃに興味を示すようならば、「ノー」とか「ダメ」などといって、軽く叱ってみましょう。ただし相手になっているような叱り方はやめるようにしてください。

## <慣れさせておきましょう>

### △カラーとリード（首輪と引き綱） およびハーネス

散歩の時にいきなりカラーとリードをつけられても、子犬はカラーとリードが気になってうまく歩くことができません。家の中で自由に歩き回ることができる時間は、カラーとリードをつけるようにして日頃から慣れる様にしていきましょう。



### △体に触れられることや手入れ

この時期に体を押さえられることに慣らしておきましょう。抱かれることにも慣れる様にしましょう。犬は高いところが嫌いなものです、テーブルや台の上に置かれても平気なように練習しておくのも大切です。コームやブラシにも慣れさせておくことも大切です。



## 飼い主のトレーニング

日々過ごしていく中で、生活に無理なくレッスンを取り入れていくことは、大切です。

### <飼い主の心構え>

犬をしつけたり、トレーニングしたりするには飼い主の気持ちの準備が必要です。

#### △ 根気よく

犬との関係づくりやトレーニングは、根気よく向き合うことです。なかなかできなくても気長にやっていくことが大切です。

#### △ けじめをつける

日頃からほめる時はしっかりほめる、叱る時は威厳をもって叱るというようにけじめをつけた生活を送ることが大切です。

#### △ できなくとも叱らない

犬はマイナスのイメージを避けるという性質を持っています。うまくできたらほめるという方針を忘れないようにしましょう。

#### △ 急激な伸びは信用しない

昨日できたことが今日できなくとも、あまり気にしないでください。うまくできなければレベルを下げて練習すれば犬をほめることができます。

### <トレーニングの始まり>

#### △ よく観察すること

犬をよく観察することはしつけをする上でとても大切です。

#### △ 犬の好きなものを見つける

犬の好きなものが見つかりとトレーニングはスムーズに進みます。

### △性格を飼い主さんで把握する

犬の性格を把握していくと、レッスンをする上でとても助かります。

### △いろいろな場所へ連れて行って社会性を身につけさせる

犬の社会性はいろいろな経験をさせることで身につけていきます。

### △車での移動に慣れさせる

現社会では、移動というと車ということが多いものです。

### △問題となる行動を書き出す

問題となる行動は、レッスンをしていく中でも起こってきます。

## <適切なトレーニング用具>

### △カラー・・・首輪のこと

布製かナイロン製のものが犬に負担をかけないのでよい

### △リード・・・引き綱のこと

布製かナイロン製のものが犬にも飼い主にも負担をかけないのでよい

### △ウェストバッグ・・・ごほうびなどを入れるためのかばん

犬のしつけやトレーニングをするときには必要です 両手はできるだけ空けておくようにします

### △ごほうび(モチベーター)・・・ワンちゃんの好きなもの

食べるものでも、おもちゃでもごほうびになります ウェストバッグに入れておくようにすると便利です

### △ケージ(キャリーバッグ)・・・ワンちゃんを入れておく箱

ワンちゃんを落ち着かせるためにも、けじめある生活を送るためにも必要なもの

### △マット・・・心地よいベッド

レッスンでは課題のひとつで使います

## <ワンちゃんとの絆を深めるために>

△ボディランゲージを使う

ワンちゃんは言葉を使いませんが、体で表現してきます

△健康状態は良好ですか

何をするにしても健康状態がよくなければ、うまくいきません

△要求は無視する

◇何事も要求はこちらから

◇食事は飼い主が先に

◇テリトリーの出入りは飼い主が先

◇テリトリーは飼い主が支配する

◇ワンちゃんとの生活は民主主義にあらず

△生活にけじめをつける

良いこと、悪いことのけじめをつけることも大切。犬のしつけのポイント は「即賞即罰」で時間が経てば褒めていることも叱っていることも理解しません。犬との生活のポイントは「褒める:7、叱る:3」でほめるポイントは「犬に名前を教えること」ことです。

また飼い主のものと犬のものをはっきりと区別し、共有しないようにすることです。

△どこを触っても大丈夫なように

どこでも触れる犬は、優しい扱いを受けることができます。タオルで体をふく、毎日4本の足をふくなど体に触ることは欠かせないことです。

△マズルコントロールは大切

お互いの信頼関係や上下関係を確認するために、犬はこのような行動をします。犬をほめたり撫でたりするときに鼻先から軽くほめるようにしてみましょう。

△「オスワリ」と「おあずけ」は誰でもできる

エサの時間の、この行動を教える方は多いはず。これは究極の陽性強化トレーニングをしているのです。エサの時間じゃないときにもできるようにしましょう。

△「フセマテ」ができれば生活は快適

「フセ」は犬にとってみれば服従の姿勢です。この姿勢で長時間待つことができるようになれば、生活はうんと楽になってきます。

△リーダーは公平で一貫した態度で接する

あらゆるやりとりは、飼い主の都合で行ってください。犬の都合に合わせるようになると、犬の思う壺ですよ。

## <基礎トレーニング>

△ レッスンするときは必ずリードをつけて

レッスンは全て、飼い主が主導権をとります。そのためにも必ずリードをつけて練習しましょう。

△ 犬に「名前」を教えましょう

名前はとても大切です。名前は良いことが起きる前兆だと思わせるように仕向けましょう。

△ アイコンタクトは基本中の基本

全てはアイコンタクトから始まります。こちらに注目を向けてから行動を始めるように習慣づけましょう。

△ オスワリとフセは服従するきっかけをつくることできる

ごほうびを使って誘導してその動作をするように練習してください。  
服従するきっかけをつくる動作ですから、強制的にすることはやめましょう。

#### △ マテは犬に服従心を養うことができる

マテは慎重に練習することが大切です。いきなり難しいことはできません。簡単でやさしいことから練習していきましょう。

#### △ オイデは飼い主の前までしっかり来ること

オイデは飼い主のところへ喜んで来るという動作です。でもうれしすぎて飛びついたり、通り過ぎたり、捕まらなかったり様々な行動をします。こうならないように落ち着いて呼び、飼い主の前でオスワリをさせるという習慣をつけるようにしましょう。

## 宿題です

### <犬の気を引くことから考えましょう>

△ワンちゃんに名前をしっかりと教えましょう

- ・エサを与える時・・・与える前に必ず名前を呼ぶこと
- ・ワンちゃんに触るとき・・・接するときにはごほうびを準備してから
- ・お散歩に出るとき・・・この時にもごほうびを準備しましょう

△アイコンタクト...飼い主と犬との絆を結ぶ第一歩。

目と目を合わすのではなく、こちらに注目すればOK。犬にエサを与える時に、犬の名前を呼んで注目してから与えるようにする。犬に触る前は必ず犬の名前を呼んで少しでも注目するようにしてから触るようにする。

このとき必ずごほうびは必要。お散歩中にも、こちらに注目するように仕向けていきましょう。

### <犬には命令をあたえずにその場に座らせましょう>

△犬に飛びつかれないようにするために...

なぜ、犬に命令をあたえずに座らせることが大事かというと、どのようにしたら飼い主に喜んでもらえるかを犬が自分で考えて答えを出させるためです。犬にも考える時間をあたえてあげましょう。これもエサを与える時や、犬に触る時なんかに練習するといいでしょう。その他に、お散歩に出る時に玄関のドアの前で犬の名前を呼んで座らせるようにしてみましょう。

### <犬が注目するようになったら、犬に"オスワリ"をさせましょう>

"オスワリ"...犬その場に座らせますが、この時の命令語は統一しましょう。"スワレ"でも"オスワリ"でもどちらでもいいでしょう。犬の名前を呼んで犬が座ったならばすぐに"オスワリ"といって誉めて犬の好きなものを与えましょう。(命令語のあとがけ)

## <犬の居る環境を考えて見ましょう>

どんなにしつけをしようとしても、生活環境がいい状況でないと遠回りになってしまいます。

しつけを始めると同時に、犬の居る環境の改善も考慮してみましょう。犬を自由にさせすぎると返ってフラストレーションをためてしまうことがあります。安心して寝られる場所を確保してあげましょう。エサの時間に注意して与えるようにしましょう。お散歩は時間より回数が効果的です。

(無断転載、複製を禁止します。)

## 小西先生プロフィール

名 前；小西 伴彦 ♂ 1964年生まれ

出 生 地；京都府北部

現在の活動地；北陸（福井・石川・富山）

最 終 学 歴；高校卒業

活 動 歴；高校を卒業後、民間の警察犬訓練所に入所、在籍中に華々しい活躍は多くないが、訓練競技会で部門優勝を何度か経験したが、所長との考え方の違いから約4年後に退所。

退所後、独立し地元京都で「犬舎ナチュラルハウス」を設立し、犬の繁殖と訓練を始める。独立してからも「処罰法トレーニング」に疑問を抱きながら、訓練を続けているときに、公益社団法人日本動物病院福祉協会

（JAHA）の存在を知り、JAHA主催「犬のしつけインストラクター養成講座」に参加し、テリー・ライアン女史に出会い、トレーニングの手法やものごとの捉え方、考え方の新しさを知り、理論的なしつけトレーニングの重要性を痛感し、陽性強化によるトレーニングを実施し始め、同時にテリー・ライアンを師事。

何度かのアメリカでのトレーニングキャンプに参加する機会を得て、その後第1期のJAHA認定家庭犬しつけインストラクターの資格を頂く。

宮崎大学のサークル「びいだま」による犬のしつけ講習会及びしつけ教室を開くことをきっかけに、各行政からの依頼による講演会、動物病院主催のスタッフ勉強会の講師、定期的なしつけ教室の開催などを行う一方で、災害救助犬ネットワークに参加、アメリカのマーシャ・コーニング、アンドリュー・レブマンによる災害救助犬トレーニングキャンプに参加、盲導犬協会において、犬のしつけ方、扱い方のスタッフ向け勉強会を開く、また京都介助犬を育てる会にて、スタッフ向けトレーニング勉強会を開くなど多岐の分野での活動を行う。

平成14年には、拠点を北陸に移し金沢と福井にある専門学校「国際ペット専門学校」において、犬のトレーニング専任講師として学生に教える。

平成22年には、一般社団法人ふくい動物愛護管理支援センター協会の代表理事を務め、福井県の動物愛護管理事業を受託し、行政と共に動物愛護事業を行うと共に動物愛護活動全般に渡って現在も活動を行っている。

しつけ教室；現在、plusWan犬のしつけ教室を主宰し、金沢教室、小松教室、高岡教室、射水教室、福井教室にて開催

動物取扱業；登録番号 112D001

名 称 plusWan犬のしつけ教室

種 別 訓練

責 任 者 小西 伴彦

登録期限 平成24年10月29日～平成34年10月28日

備 考 出張訓練は北陸一円